

積極的な最低生活保障 の確立

—国際比較と展望—



栃本一三郎・連合総合生活開発研究所／編

A5判・306頁・定価 本体2,700円＋税

日本の最低生活保障は
格差の底から抜け出すための
支えとなっているか

推薦のことば

日本は、いま、社会基盤そのものが揺らいでいます。生活保護世帯は100万世帯を超え、貧困率も15.3%と若年層や高齢層における貧困層の固定化が懸念されます。本書は、諸外国における失業や障害を含めた直近の最低生活保障を明示することで、福祉・社会保障の「小さな政府」論とは異なる未来への選択を示してくれます。

日本労働組合総連合会 事務局長 古賀伸明

本書の特色

最低生活保障制度を生活保護制度のみに限定せず、現代社会における基礎的セーフティネット、包括的な制度としてとらえ、改革を進める先進主要各国との比較から、今後の最低生活保障制度のあり方を提言します。

執筆者

- 栃本 一三郎 (上智大学総合人間科学部教授)
- 武川 正吾 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
- 布川 日佐史 (静岡大学人文学部教授)
- 大森 正博 (お茶の水女子大学生生活科学部助教授)
- 宮寺 由佳 (浦和大学総合福祉学部講師)
- 後藤 玲子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)
- 濱口 桂一郎 (政策研究大学院大学教授)
- 岩名 礼介 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング研究員)



第一法規

東京都港区南青山 2-11-17 〒107-8560
<http://www.daiichihoki.co.jp/>

Tel. 0120-203-696
Fax. 0120-202-974

提 言

積極的な最低生活保障の確立をめざして

第Ⅰ部

積極的最低生活保障システムの構築をめざして

枋 本 一三郎

第1章 最低生活需要と最低生活保障システム

第2章 積極的生活保障制度の構築をめざして

第3章 めざすべき最低生活保障を求めて

第Ⅱ部

先進各国における最低生活保障

第1章 イギリスの最低生活保障制度

武 川 正 吾

はじめに

- 1 社会政策の体系
- 2 社会保障の体系
- 3 公的扶助の体系
- 4 社会的排除と社会的包摂

第2章 ドイツにおける最低生活保障制度とその改革動向

布 川 日佐史

はじめに

- 1 ドイツにおける貧困と制度改革の概要
- 2 社会扶助
- 3 求職者基礎保障法

おわりに― 改革が意味すること

第3章 オランダの最低生活保障制度

大 森 正 博

はじめに

- 1 オランダの社会保障制度……オランダの最低生活保障制度の構図
- 2 公的扶助制度

おわりに― 結びに代えて

第4章 スウェーデンにおける最低生活保障制度

宮 寺 由 佳

はじめに

- 1 スウェーデンの社会保障制度の特徴と社会扶助の位置づけ

2 社会扶助の運営と現場の課題

3 社会扶助における長期受給者問題

4 スウェーデンモデルが社会扶助に与えた影響

5 最低生活保障の課題―防貧から救貧へ

第5章 アメリカの最低所得保障

後 藤 玲 子

はじめに

- 1 アメリカの福祉研究の視座
 - 2 アメリカの最低所得保障の体系
 - 3 アメリカの福祉と社会保障
 - 4 困窮家族への一時扶助プログラム（TANF）
 - 5 TANF プログラムの実態
 - 6 「民」の活動と「公」の役割
- おわりに― 結びに代えて

第Ⅲ部

E Uにおける貧困と社会的排除に対する政策

濱 口 桂一郎

- 1 前史
- 2 社会的排除の政策課題化と社会保護（資源）勧告
- 3 1990年代の試行錯誤―新中期行動計画の蹉跌と条約上の規定の進展
- 4 社会的統合戦略の形成過程
- 5 指標とその後の進展
- 6 メイク・ワーク・ペイ
- 7 戦略統合をめぐるせめぎ合い
- 8 労働市場から排除された人々の統合促進（法制的措置）

補 論

最低所得保障制度の給付基準に関する国際比較

岩 名 礼 介

- 1 日本における生活保護制度見直しと国際比較の接点
- 2 最低所得保障制度の範囲と対象者
- 3 最低所得保障制度の給付基準と行財政システム
- 4 高齢者の所得保障と最低所得保障制度
- 5 最低所得保障制度と労働・雇用関連制度